

業務部速報



No. 152

発行 26. 3. 18

JR東労組 業務部

26春闘 あらゆる分断と賃金の抑制を許さず、現場第一の姿勢で職場の努力に報い、生活とモチベーションの維持・向上の実現を求める緊急再申し入れ【主な議論内容②】

④過去最高の業績・働き度にも関わらず、夏季手当が昨年+0.1ヶ月には納得できない

【組合】アンケートでは、夏季手当回答が昨年プラスたった0.1ヶ月の2.9ヶ月だったことに満足ですかと聞いた。結果、不満83.5%、満足3.4%という結果だった。

【組合】【組合員・社員の声】

要員不足の中、休日出勤は増える一方で業務もキツくなる一方、それに比べて0.1ヶ月しかあがりません。もはや舐めてるとしか感じない／この一年、自身は慣れない企画業務に磨きをかけ会社施策に従事してきたが、その頑張りが0.1なのかと思うと怒りを乗り越えて呆れる／あれだけ多くの大規模輸送障害が発生した中で緊急の呼び出しや信用回復のために現場第一線で汗を流している社員に対しての回答ではない／少なすぎる。現在進行形で社員一人当たりの業務量や負担は明らかに増え続けており、昔とは比べものにならない。にもかかわらず夏季手当などはほぼ据え置きで、物価上昇も加味すればマイナスである 【組合】納得できないという声を受け止めるべきだ

【会社】声は受け止める。出来得る最大限の回答を行い、過去最高額を回答している。

【組合】会社は夏季手当についてどのような声を聴いているのか。

【会社】手取りで入ってくるのは過去最高額だという意見を多く頂いている。

⑤経営判断で増えた費用によって抑制される営業利益を見るのではなく、営業収益を見るべきだ

【組合】【組合員・社員の声】

インバウンド収入があがらないのは我々の責任ではない。ただの言い訳だ。騙されない／会社は社員の努力よりも、数字（儲け）しかみていないからこのような低額回答を平気でしている。これでは離職（特に若手）の歯止めはかからない。経営陣はしっかりと現場に目を向けるべき／営業利益を少なくしているのは会社であり、過去最高を作り出し続けているのは組合員である。しっかりと答えるべき 【組合】経営判断で増えた費用によって抑制される営業利益を見るのではなく、営業収益を見るべきだ

【会社】いたずらに営業費用を増やしていない。将来のために投資している。社員の尽力があって過去最高の収益になったのは否定しない。それを踏まえて最大限の回答をした。

⑥会社は「65歳までの生涯賃金は上がる」「断面で見るとはいい」ではなく、組合員・社員が生活しているのは「今」だ！夏季手当の再考を求める！

【組合】会社は「65歳までの生涯賃金は上がる」「断面で見るとはいい」と繰り返し述べているがアンケートでは、人事賃金制度への納得感について、納得していない83.8%、納得している2.3%となった。

【組合】指導職の方で、都市手当B級地、奥さんと子どもが4人いる方が、夏季手当の支給が現行から約25万円下がる。これでは生活できない！と言う悲痛な声が出ている。期末手当の算出基礎の変更により、生活に関する部分として、都市手当、扶養手当が除外されたことによる影響だ。この影響は年末手当にも出る。生活しているのは今だ。断面も大事にしていきたい。

【会社】断面で見るとはいいのではなく、全社員の総収入は増える。全体を見て判断している。1つの手当をもって判断するものではない。

【組合】【組合員・社員の声】

今の生活が苦しいのに何十年後の話をされても無理がある／生活するうえで、今が大事。出費があるのは今現在／長く働けば多くもらえるのは当たり前／55～65歳より今現在の方が、子育てや住宅ローンなどで出費がかさむ為、今時点で賃金が増額されないとかかなり苦しい／様々な手当が不利益に剥奪されて65歳までと言われてもやる気が出ない。今が一番お金がかかる。納得できない。繰り返しますが今が一番お金が必要 【組合】2.9ヶ月の回答を撤回し、3.2ヶ月+5万円の回答をするべきだ。

【会社】期末手当だけを見るのではなく、月例賃金も見るといい。貴側の要求に届いていないが2.9ヶ月で109万3200円という過去最高の金額だ、今出来得る最大限の回答だ。